

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

# 新 知 大 温

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2016.7 Vol.28

平成28年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター  
 〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号  
 TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125  
<http://www.suac.ac.jp/library/>

## Contents

### ■表紙

『米川十組香私記』 ——— ①

### ■図書館散歩

和田文庫「大雑書」のなぞ — ②

静岡文化芸術大学 学長  
 横山 俊夫

人生の道しるべになった本 — ③

図書館・情報センター長 教授  
 宮田 圭介

### ■知っていますか?こんなサービス

学生購入希望(リクエスト) — ④

### ■巻末

図書館ニュース ——— ⑧



## 『米川十組香私記』

叢香舎春龍[著] [792/So 32]

今回は、当センターの和田文庫に所蔵する江戸時代のお香の書『米川十組香私記』をご紹介します。

書の題簽(外題)には「梅のしるべ」とあります。これは『後拾遺和歌集』の「梅の花匂ふあたりの春風や待つ人さそふしるべなるらん」によるものです。著者は叢香舎春龍で、宝暦12(1762)年に著したのですが、当センター所蔵は版本で、天明5(1785)年以降の版です。著者の春龍は、浄土宗の曜誉上人(1721~1799)です。

この書は、香道の流派のひとつである米川流の十組香の書です。組香とは、種々の香木を定められた方法で焼き、文学的テーマなど一定のテーマを表現する様式のことです。十組香とは十種の組香のことで、米川流の十組香は、無試十炷香、宇治山香、小草香、小鳥香、源氏香、花月香、名所香、競馬香、矢数香、連理香です。

最後に、和田文庫についてご紹介します。当センターの和田文庫は、静岡県磐田郡龍山村西川(現在の浜松市天竜区龍山町)で山林業、酒造業、回船問屋を生業とした和田家が、主として、江戸時代中期から後期に至る3代の間に収集した歌書、史書、漢籍、遠州国学関係の古書、千百余冊です。昭和55(1980)年に旧・静岡女子短期大学に寄贈され、平成13(2001)年度から本学で所蔵しています。

#### 参考文献

- ・翠川文子『香道文献目録：所蔵館別』香書に親しむ会, 2015 [792/Mi 14]
- ・神保博行『香道の歴史事典』柏書房, 2003 [792.021/J 52]
- ・香道文化研究会『図解香道の作法と組香』雄山閣, 2006 [792/Ko 21]



静岡文化芸術大学 学長  
横山 俊夫  
Yokoyama Toshio

本文中に登場した資料

『大雑書』  
[031.2/0 27]

高安蘆屋(草創)、鎌田松荷  
(増補); 丹波桃溪(漢書)  
『都会節用百家通』

■ 註

- 1 静岡女子短期大学和田文庫目録編集委員会『和田文庫目録』同大学附属図書館、1982年。  
(書名記載は外題原則／凡例)
- 2 横山俊夫「大雑書考—多神世界の媒介—」『人文学報』86号、2002年。
- 3 横山俊夫、小島三弘、杉田繁治『日用百科型節用集の使われかた』京大文学部人文科学研究会調査報告、第38号、1998年。
- 4 森銑三「高安蘆屋」、「高安蘆屋遺事」『森銑三著作集』第4巻、中央公論社、1973年。
- 5 頭書「日本年代広鑑」のうち、「中御門院」享保十四年(1729)の条「交趾国より大象を献す」に対応。字海31～32丁参照。

■ 謝辞

本稿を草してのち、かつて和田家蔵書の静岡女子短期大学受入れにご尽力された 須田悦生 静岡県立大学名誉教授にお会いする機会があり、18-19世紀の和田家の学問について貴重なご教示をいただいた。記して謝意を表します。

## 和田文庫「大雑書」のなぞ

昨秋、本学の図書館・情報センターをはじめ訪問しました。目当ては「和田文庫」でした。昭和55年(1980)に磐田郡龍山村西川(今の浜松市天竜区龍山町)の和田家から本学の前身のひとつ、県立静岡女子短期大学に寄贈された千百余冊の目録に「大雑書」と出ていたからです<sup>1</sup>。和田家は、かつて天竜川中流域の物流のなかめの位置にありました。

じつは、近世に広く使われた吉凶占い手引き書『大雑書』を、大学図書館が自ら進んで集めることはあまりなかったのです。ただ近年、社会史や出版文化史の研究が盛んになったことから、旧家の古文書だけでなく蔵書も一括して図書館に受入れることも多くなりました。それなら、中にたいていは含まれていた『大雑書』の収集も進むかと思いきや、そうなりません。あまりに傷んでいますので、とか「中身が迷信ばかりで、といった理由で、寄贈者がためられるのかもしれませんが。ただ、かつては男女相性の判断、家作や旅立ちの日選び、引越し先の方角選びなどのために陰陽道の助けを求める習いは、古くは宮廷周辺に顕著であったのですが、17世紀に入ってから、『大雑書』の刊行が相つぎ、一気に社会各層に広まったわけです。20世紀に入っても、この書物は地域、職種、男女の別を超えて、使われる家では擦り切れるまで使われていました<sup>2</sup>。

さて、本学図書館・情報センター訪問の当日。「傷みがはげしいですよ」と事前に言われていたことを思い出しつつ帙装を開きますと、反故紙(もと舟荷出入帳か)を裏に貼り合わせた無地の替表紙に「大雑書」の三文字が、中細の筆先に力をこめて書いてありました。しかし、この表紙にしろうじて糸で繋がっていた本文のほうは、虫食いも多く、綴じ糸は断続、丁順(ページの並び)は各丁が膠着した部分を除いて、交錯しておりました。

ただ、すぐに判ったことは、多くの刷り面が大雑書類の記述ではなく、『節用集』に特有な漢字引であることでした。節用集は、漢字で文書を作る必要がある家ではほぼ例外なく備えていた和漢辞書です。各丁をあらためるうち、「都会節用百家通」の内題にも行き当たりました。そう、大坂の文人、高安蘆屋や鎌田松荷が19世紀はじめに世に出した厚冊の節用集でした。絵は丹羽桃溪。富士山を火口の真上から見下ろす大胆な口絵も出てきました。

厚冊節用集類は、増補された和漢辞書のほか、名所図、王代一覧、武鑑、詩歌や武勇にひいた人の絵伝、あるいは礼儀作法、文章指南、四季献立のほか、大雑書抄も加えた百科もので、19世紀前半から百年ほどのあいだ、日本全国の富家に行きわたりました。和田文庫のものは巻尾を欠き、刊年は確定できませんでしたが、「大日本国尽」山城の部に出る所司代が「牧野備前守」になっていましたので、この人の在職最終年、享和元年(1801)までに版下を整えられたのでしょう。後日、別本と照合しましたところ、この節用集は同書の文化八年(1811)補刻版で、三百数十丁(700頁余)のものだと判明しました。

では、その和田文庫の厚冊の替表紙の題がなぜ「節用集」ではなく「大雑書」と墨書されたのでしょうか——大雑書の記述は巻末数丁に過ぎないにもかかわらず。この表紙を仕立てたのは、同家のあるじ邦道(1781~1857)か、あるいはすぐ後に続いた世代と考えられますが、その時点では、おそらく節用集としての本来の役割、つまり和漢辞書としての機能は、この家ではあまり意識されなくなっていたのかもしれませんが。大雑書部分の磨耗はとくにはげしく、その各丁も同時期の反故紙で裏打ちされていました。

日本各地に残る厚冊節用集には、私はこれまで数多く出会い、それらの使われ方をさぐるため、下小口の摩耗分布をデジタル画像にして電算統計処理分類を試みたり、大雑書部分へのこだわりの痕跡が、伝存本の九割以上にのぼることを発見したり<sup>3</sup>、あるいは、そのような数量化分析への反省から、あらためて目視で精査しなおしたりして今に至っておりますが、和田文庫のように題まで変えた事例は珍しいものでした。節用集という、日本の文明化を日常生活の次元で支えた書物のありかたを考えるなら、このような事例も視野に入れよと和田文庫から教わったのです。

なお、『都会節用百家通』の編者、高安蘆屋の人となりや動物好きについては、森銑三氏がつとに紹介しておられます<sup>4</sup>。この節用集に出る、長いマツ毛の象の絵も彼の好みであったかと想像します【右図】<sup>5</sup>。

4月に本学へ赴任して以来、まだ和田文庫本を落ち着いてひもとく機会はないのですが、その和刻本中国古典の幅の広さと、和書のなかでも謡本、歌集の集書の厚みが目をひきます。遠州国学研究家や学生諸氏も共同して、本学で「和田文庫展」を催してみるのは如何でしょうか。





図書館・情報センター長 教授  
宮田 圭介  
Miyata Keisuke

本文中に登場した資料

井原西鶴(著)  
『世間胸算用』  
(新潮日本古典集成；第81回)  
[918/Sh 61/81]

徳大寺有恒、島下泰久(著)  
『間違いだらけのクルマ選び』  
[537/To 35]

徳大寺有恒(著)  
『徳大寺有恒ベストエッセイ』  
[537/To 35]

邱永漢(著)  
『お金に愛される生き方』  
[333.18/Q 1]

佐々木常夫(著)  
『ビッグツリー：  
私は仕事も家族も決してあきらめない』  
[289.1/Sa 75]

中島隆信(著)  
『障害者の経済学』  
(増補改訂版)  
[369.27/N 34]

## 人生の道しるべになった本

『温故知新』Vol.19の図書館散歩では、私の高校時代の図書委員会活動について触れましたが、委員会解散を企てた私が、まさか本学の図書館・情報センターを担当することになるとは予想していませんでした。わずかながらでも図書館の発展に貢献したいと思います。今回は、社会人になってからの読書についての回想録です。

25歳で就職した年の正月明けに、相模川の河川敷にあるオフロードバイクコースで練習中、ジャンプに失敗して頭から転倒、救急車で運ばれました。幸い、鎖骨骨折で済みましたが、16日間入院しました。6人部屋の中で、私を含む若者3名はオートバイ事故が原因でした。1980年代はオートバイブーム全盛期で、その病院周辺も走り屋向きの道路が多いために事故が多発して、「春休みには30分毎にライダーが搬送されてきますよ」と看護師から聞きました。

入院したにもかかわらず、見ず知らずのライダー患者同士でバイク談義するのは楽しい経験でした。しかし、病人に囲まれた生活が明るいはずはなく、夜中でも救急搬送の慌ただしい音が聞こえるので、必然的に生きることを考えさせられます。そこで、このときこそ古典を読もうと、会社の友人に『徒然草』『万葉集』『今昔物語』など数冊を選んで持ってきてもらいました。その中でも、井原西鶴の『世間胸算用』が一番記憶に残っています。江戸時代の大衆ドラマにすぎないのですが、お金にまつわる話は時代を問わず普遍性がありますし、会社員として収入を得る立場になったこともあり、学生時代とは比較にならないほど金銭の重みを感じたからだと思います。

しかし、退院して元気になると研究生生活は楽しく、「24時間戦えますか」のCMに違和感を覚えぬい、大勢の元気な会社員の中の一人でした。本学に赴任するまでの20余年の読書と言えば、工学書かビジネス書が中心でした。ただ、自動車評論家の故・徳大寺有恒氏と経済評論家の故・邱永漢氏の著書だけはほとんど購入しており、私の人生の指針になっていました。

徳大寺有恒氏は、1976年出版の『間違いだらけのクルマ選び』で評論家として登場し、最後まで自動車評論の第一線で活躍されました。一貫して自動車のあるべき姿、コンセプトの重要性を訴え続けていて、自動車愛好家だけでなく、自動車関係の技術者にも大きな影響を与えてきたと思います。私も修士課程で自動車工学を学んだほどクルマ好きですが、全てのメーカーのクルマに乗りたかったので、就職先は自動車業界を避けた経緯があります。(当時は、どこの会社でも自社製品しか買えない雰囲気でした。)一冊選ぶならば『徳大寺有恒ベストエッセイ』を挙げますが、徳大寺氏の数多くの評論から、「交通事故がゼロになるクルマの実現が究極の目標である」ことを私は学びました。

邱永漢氏は、ご自身の事業の成功・失敗体験に基づく経済評論でしたので、そのことばには説得力があり、人生とお金の扱い方に関する考察が優れていると感じました。450冊以上ある著作はどれも平易で読みやすいのですが、その奥行きは深く、今でも読み返すたびに発見があります。また、邱氏の「40歳定年制」の提言は、私が大学教員になろうと考えたきっかけにもなりました。ここでは『お金に愛される生き方』をあげますが、浜松市立図書館にも230冊以上蔵書がありますので、簡単に読むことができます。

本学に赴任してから、発達障害児の支援研究を始めましたが、治療が困難な病気の書籍は読めば読むほどつらく憂鬱になりがちで、自分の無力さを思い知らされます。その中で、佐々木常夫氏の『ビッグツリー』には勇気づけられました。自閉症の長男と病弱な奥様を抱えながら、家庭と仕事との両立を図る佐々木氏の姿勢には、安易に同情を抱きがちなる福祉の物語とは異なる、前向きに生きる迫力と強い意志が感じられます。この本がきっかけで、佐々木氏は「ワーク・ライフ・バランス」の第一人者になっていますが、一読すると納得できます。

また、中島隆信氏の『障害者の経済学』も研究を後押ししてくれた一冊でした。発達障害に関する書籍の大多数が、当事者か医療福祉関係者による執筆であり、ユニバーサルデザイン関係者の執筆はきわめて少ないため、研究成果が出せるのか懐疑的でした。しかし、中島氏は経済学の視点から、障害者福祉の合理性と必要性を理論的に分析しており、今までにない障害福祉の見方と提案を行っていることに刺激を受けました。同時に、デザイン学の視点でも、発達障害児の支援を提案できるはずだと感じました。こうして振り返ってみると、物事をつきつめて考えていると、その時々自分にとって必要な書籍が見つかると思います。

## 知っていますか？こんなサービス

### 学生購入希望（リクエスト）

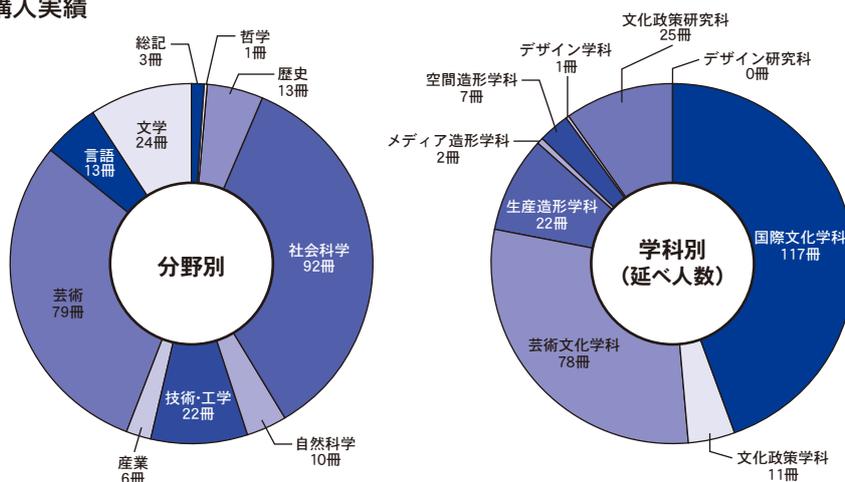
図書館・情報センターを利用して、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、高価で買えない」などといったことはありませんか？

そのような時は、学生購入希望（リクエスト）を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書（3枚綴）」に必要事項（図書の情報など）を記入して、カウンターに提出してください。

#### ★学生購入希望（リクエスト）について

- ・学生購入希望は、大学の学生を対象とするサービスです。・平成27年度は6～7ページ掲載の263冊を購入しました。
  - ・絶版や品切れとなっている図書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、購入できないこともあります。
  - ・雑誌・漫画類および1点が5万円以上の高額図書を除きます。・既にセンター内に所蔵している図書は購入できません。
- その他、学生購入希望の申込についてわからないことがありましたら、カウンターでご相談ください。

#### ■平成27年度の購入実績



### 学生購入希望（リクエスト）で購入した図書のご紹介

#### 『バウハウスと茶の湯』

山脇道子 [著]  
新潮社, 1995.4  
[289.1/Y 47]



バウハウスは、1919年ドイツに設立された美術と建築に関する総合的な教育を行った学校であり、芸術と工業を統一するという革新的な教育法で20世紀のデザインや美術に大きな影響を与えました。1930年、日本ではまだ女性には選挙権さえも与えられていない時代に、バウハウスに山脇道子という日本人女性が留学したという事実を知ったとき、私はすぐに彼女に強い関心を持ち、その人となりを知るため図書館に駆け込んだのを覚えています。

『バウハウスと茶の湯』は、山脇道子によって書かれた彼女のバウハウスでの留学体験をもとに描かれた本です。バウハウスについては、日本でもその教育理念や歴史について記述された本が多く出版されています。しかし、この本のようにバウハウスでの日常の様子やワシリー・カンディンスキーといった名だたる講師陣との交流を生徒の目線から細かく書かれた本は、他にはないでしょう。私にとって、バウハウスは美術史やデザイン史のなかの偉大で崇高な存在でしたが、山脇道子のバウハウスでの体験記はまるで私も同じ教室で授業を受けているかのように感じさせ、その存在を身近なものへと感じさせてくれました。また、夫の山脇巖の渡独を機に彼女自身がバウハウスへ入学し、言葉も全く分からない異国の地で、バウハウスでの学びを心から楽しみながらも、努力を厭わない彼女のたくましい姿には私自身、大変感動したと同時に勇気ももらえました。

タイトルにもあるように、山脇道子は茶の湯とバウハウスの教育理念における共通性について語っています。静岡文化芸術大学では、1年次の必修科目として茶道の授業がありますが、その時に学んだ、茶道の“無駄をそぎ落とした作法”というのが、まさにバウハウスが掲げた機能性・合理性の追求と通じていると理解できたときは、新しい世界が開けたように感じました。

山脇道子は帰国後、講師として日本におけるテキスタイルのデザイン教育へ貢献しています。彼女は、この本を通してバウハウスと人々の意識的な距離を縮めるというもう一つの大きな役割を果たした、と言えるのではないのでしょうか。

【文化政策学部 芸術文化学科 3年 平安名 萌恵】

## 『ミナペルホネンのテキスタイル』

ミナペルホネン [著]  
文化学園文化出版局, 2015.5  
[753/Mi 35]



『ミナペルホネンのテキスタイル』は、1995年から2005年の10年間に発表された、織り・刺繍・プリントそれぞれの作品集『ミナペルホネンの織り』『ミナペルホネンの刺繍』『ミナペルホネンのプリント』を、さらにまとめ直して1冊にした本です。

私がミナペルホネンと出会ったのは、2012年、ミナのテキスタイルが手帳のカバーとして発売された時でした。高価な洋服や、インテリアファブリックではなく、小さく、とても身近な場所にミナのテキスタイルを持てることが、当時の私にはとても嬉しく、テキスタイルデザインへの憧れの源となりました。

『ミナペルホネンのテキスタイル』は、最初から最後まで、ミナのテキスタイルの本です。自然や日常に寄り添うことをテーマとした表現、日本各地の生地産業と連携した生産、ミナのテキスタイルデザインのポリシーすべてが詰まった本です。

私はこの本を見てテキスタイルデザインの美しさだけではなく、生地とはどのようにして作られ、どのようにして私たちのもとに届いているのだろう、と想像させられました。

テキスタイルデザインは、デザイナーの机上で描かれるデザイン画だけで出来るものではありません。繊維があり、糸ができ、織機に糸がかけられ、織機が動き織りあがったものが、初めてテキスタイルとなるのだと思います。それには地方に散在している生地産業とのタグが欠かせません。

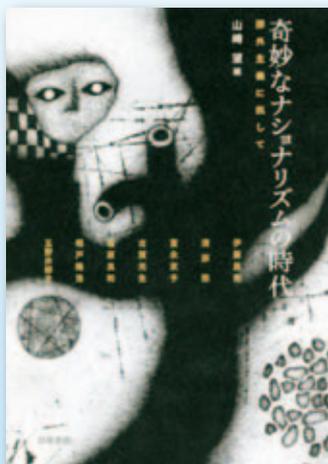
作者はどんなことを表現しようとしたのか。どんな糸を使い、どんな工程で、どんな場所でこの布が生み出されているのか。私は、テキスタイルデザインの本を見ている時、いつもそのことを頭の片隅で想像しています。たった一枚の布地から、様々な想像力がかき立てられるのも、テキスタイルデザインの力なのだと思います。

デザイン作業に行き詰まった時、本が見たいけれど文章は重いかという時、手持ち無沙汰でぼーっとしている時に、想像力を働かせて、自分の好きな布地に思いを馳せ、気分転換を試みるのはいかがでしょうか。

【デザイン学部 デザイン学科 2年 西尾 かなで】

## 『奇妙なナショナリズムの時代：排外主義に抗して』

山崎望 [編]  
岩波書店, 2015.9  
[311.3/Y 48]



本書のキーワードは「ナショナリズム」です。特に、1980年代から冷戦が終焉する1990年代を経て現在に至るまで、「グローバル化」と、個人の自由や市場原理を何よりも優先する「新自由主義」を背景として、従来のナショナリズムが変化してきたことが指摘されます。本書では、今までのものとは異なるナショナリズムを「奇妙なナショナリズム」と呼び、その特徴を分析しています。8人の執筆者による編著という形をとり、「ネット右翼」、「歴史修正主義」、「欧州における右翼政党」、「日本の保守主義」などをトピックとして取り上げています。

本書を選んだ背景として、学部の卒論において排外的・差別的言動である「ヘイト・スピーチ」と、その主体である政治団体を分析していたことが挙げられます。彼ら（彼女ら）はなぜ、そのような言動を発するのか、なぜ継続的な運動として成り立っていったのか、彼らは何を目指しているのか、などの疑問が浮かびました。彼らを頭ごなしに批判するのではなく、彼らの言説はどのように作りあげられていったのかを深めていくうちに、本書に出会いました。

私が特に注目した章は、第1章の「ネット右翼とは何か」です。「ヘイト・スピーチ」を考える上で重要である「ネット右翼」についての分析がなされています。民族主義的・排外的言動が特徴である「ネット右翼」の言説を細かく分析し、いくつかの構成要素を挙げ、それが組み合わせられていくプロセスが述べられています。そこでは、2ちゃんねるなどのネット文化、マスメディアに批判的・挑戦的な「反マスメディア」志向など、一見すると差別的な言動とは関係がなさそうな点がネット右翼の出发点として挙げられています。

論考として、紙面に限りがあり、十分になされているとは言い難いですが、「ネット右翼」ひいては「ヘイト・スピーチ」をについて深める一助になると思います。

グローバルな結びつきが進み、多様な文化・宗教・民族が交流する中において、共生し理解し合おうとする人々が存在する一方で、それらを拒絶し、排斥しようとする人々も目立っているように思います。本書は後者に焦点を当てたものになっています。このような現象を見つめることで、新たな視点が生まれるかもしれません。

【大学院 文化政策研究科 1年 相崎 誠】

## 購入図書一覧

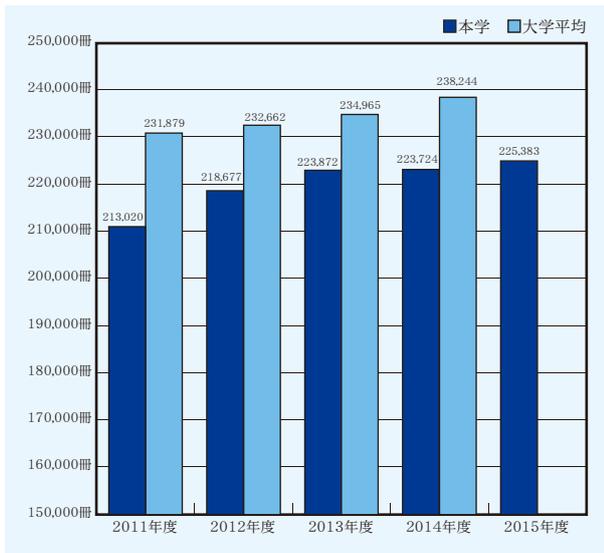
請求記号	書名	請求記号	書名
007.3/C 16	インターネット・デモクラシー：拡大する公共空間と代議制のゆくえ	361.453/H 95	メディアと活性
007.3/D 46	つながりすぎた世界：インターネットが広げる「思考感染」にどう立ち向かうか	361.453/Y 31	国際関係とメディアクライシス：地球共生コミュニケーションの座標軸
007.3/Ko 64	「炎上」と「拡散」の考現学：なぜネット空間で情報は変容するのか	361.5/Ma 21	Understanding media : the extensions of man
150/Si 8	実践の倫理 新版	361.5/Me 36	Challenging codes : collective action in the information age
209/P 66/1-2	暴力の人類史 (上) (下)	361.54/E 59	間メディア社会と「世論」形成：TV・ネット・劇場社会
209/R 25	世界史20講：史料から考える	361.6/Ki 39	大団団のジレンマ：集合行為と集団規模の数理
210.7/Ki 38	歴史と責任：「慰安婦」問題と一九九〇年代	361.63/W 36	家庭の三つの資源：時間・情報・アイデンティティ
214.2/To 21/1,3	利賀村史 (1) (3)	361.65/H 24	欧米社会の集団妄想とカルト症候群
214.3/Ka 48/1-3	金沢市史 通史編 (1) (2) (3)	361/C 93	社会的身体：ハビトゥス・アイデンティティ・欲望
234.074/D 73	イメージ、それでもなお：アウシュヴィッツからもぎ取られた四枚の写真	361/Ma 74	テキスト現代社会学
289.1/Y 47	パウハウスと茶の湯	365.4/W 36	Eight London households
291.087/N 71	Japan : beautiful landscapes・Japan's soul	367.1/Y 24	社会運動の戸惑い：フェミニズムの「失われた時代」と草の根保守運動
293.48/O 52	プラハ迷宮の散歩道：百塔の都をさまよう愉しみ	367.21/Ko 97	良妻賢母という規範
302.246/H 27	東ティモールの成功と国造りの課題：国連の平和構築を越えて	367.3/Sa 58	その子を、ください。：特別養子縁組で絆をつむぐ医師、17年の記録
302.33/F 42	Watching the English : the hidden rules of English behavior	367.3/Sa 75	ひとり親でも子どもは健全に育ちます：シングルのための幸せ子育てアドバイス
304/Y 31	アメリカ型市場原理主義の終焉	367.3/Ta 55	縁を育む：養子縁組親子の道のり
309.02/Ta 91	社会運動の力：集合行為の比較社会学	367.3/U 91	産めないから、もらっちゃった!
309.02/To 76	声とまなざし：社会運動の社会学	367.4/Ta 85	離婚で壊れる子どもたち：心理臨床家からの警告
309.04/N 94	社会運動の力：集合行為の比較社会学	367.68/A 87	趣味縁からはじまる社会参加(若者の気分)
309.7/B 39	T.A.Z. : 一時的自律ゾーン	368.5/H 81	暴力の社会学
309/D 85	サイバープロテスト：インターネット、市民、社会運動	368.6/B 31	暴力から逃れるための15章
309/Ta 94	社会運動研究入門：社会運動研究の理論と技法	369.4/H 42	国際関係のなかの子ども
311.1/I 89	「共同体」をめぐる政治学	369.41/Ka 48	子づれシングルと子どもたち：ひとり親家族で育つ子どもたちの生活実態
311.21/H 81	日本の右翼：歴史的視座からみた思潮と思想	369.41/Ka 77	赤ちゃんポストと緊急下の女性：未完の母子救済プロジェクト
311.3/Y 48	奇妙なナショナリズムの時代：排外主義に抗して	369.41/Ku 34	揺れるいのち：赤ちゃんポストからのメッセージ
311.4/J 69	『諸君!』『正論』の研究：保守言論はどう変容してきたか	369.41/Mi 38	シングルマザーの貧困
311/Ka 28	政治変容のパーズペクティブ	369.43/I 45	国境をこえた子どもたち：国際養子縁組の家族
312.4424/O 45	アフリカの内戦と武装勢力：シエラレオネにみる人脈ネットワークの生成と変容	369.43/Ta 38	赤ちゃんの値段
316.1/Ti 5	バングラデシュの先住民と人権	369.43/Y 39	「赤ちゃん縁組」で虐待死をなくす：愛知方式がつかない命
316.8/A 59	グローバリゼーションと暴力：マイノリティーの恐怖	370.8/Ko 98/6	学校文化という磁場
316.8/Ma 26	ヘイト・スピーチ法研究序説：差別煽動犯罪の刑法学	371.3/L 57	The cultural production of the educated person
316.81/C 42	朝鮮人はあなたに呼びかけている：ヘイトスピーチを越えて	371.42/F 89	ひきこもり：親の歩みと子どもの変化
316.81/Ma 26	なぜ、いまヘイト・スピーチなのか：差別、暴力、脅迫、迫害	371.47/Ke 43	青年の異議申し立て
316.81/Sa 34	在日韓国・朝鮮人政策論の展開	371.5/C 95	Language, power and pedagogy : bilingual children in the crossfire
316.81/Y 62	ヘイトスピーチ：「愛国者」たちの憎悪と暴力	371.5/Mi 88	日本に住む多文化の子どもと教育：ことばと文化のはざまで生きる
316.853/W 36	ヘイト・スピーチという危害	372.22/Ko 11	中国教育の文化的基盤
318.6/Sh 32	地域おこし協力隊：日本を元気にする60人の挑戦	373.1/Ts 79	子どもたちの三つの「危機」：国際比較から見る日本の模索
318/Ko 91	行政・市民間協働の効用：実証的接近	373.2/Mo 31	諸外国の教育行財政：7か国と日本の比較
319.1021/R 25/1-2	歴史としての日韓国交正常化 (1) (2)	377.9/L 82/2016	ロジカル面接術：2016年基本編
319.1022/Ts 93	満州事変はなぜ起きたのか	379.2/J 47	地域活性化戦略としての文化施設：中新田町・利賀村・吉田村の事例
319.1053/J 24	Phila-Nipponica : an historic guide to Philadelphia & Japan	379.6/Mo 45	ワークショップデザインにおける熟達と実践者の育成
319/W 37	国際政治の理論	382.1/O 71/1	祭りの発生(古代研究:1)
324.63/Ka 85	子どもの養子縁組ガイドブック：特別養子縁組・普通養子縁組の法律と手続き	383.7/N 39	水滸列伝図譜：108 heroes of the Suikoden by Horiyoshi 3
324.63/O 54	養子縁組あっせん：立法試案の解説と資料	383.7/N 39	Tattoo designs of Japan
329.94/O 68	単一民族社会の神話を越えて：在日韓国・朝鮮人と出入国管理体制	386.1/Ma 74	祭りのゆくえ：都市祝祭新論
334.41/I 29	日本で暮らす移住者の貧困	386.1/Mu 19	神、人を喰う：人身御供の民俗学
334.41/Mi 67	ニューカマーの子どもと移民コミュニティ：第二世代のエスニックアイデンティティ	390/Ta 84	軍隊の文化人類学
334.41/Y 83	多文化共生論：公開講座	391.1/N 93	戦争社会学ブックガイド：現代世界を読み解く132冊
338.07/N 43	図解とキーワードで学ぶ金融英語	393/Ma 52	Men against fire : the problem of battle command
338.9224/Ku 48	インドネシアの投資・M&A・会社法・会計税務・労務	481.72/Y 92	世界で一番美しい海のいきもの図鑑
338.9262/Ku 48	ブラジルの投資・M&A・会社法・会計税務・労務	489.021/N 71/3	水生哺乳類(日本の哺乳類学:3)
361.1/Me 36	ブレイン・セルフ：惑星社会における人間と意味	489.6/Ka 79	イルカ：小型鯨類の保全生物学
361.235/B 67	リフレクシヴ・ソシオロジーへの招待：ブルデュー、社会学を語る	489.6/Ka 86	鯨類海産哺乳類学
361.3/Sa 29	暴力の哲学	490.15/Si 8	人命の脱神聖化
361.45/Ka 86	自己メディアの社会学	493.74/F 27	帰還兵はなぜ自殺するのか

請求記号	書名	請求記号	書名
495.48/H 56	AIDで生まれるということ：精子提供で生まれた子どもたちの声	723.35/Mo 65	Berthe Morisot
495.48/Ko 12	生殖医療はヒトを幸せにするのか：生命倫理から考える	723.359/V 62	フェルメール光の王国
495.48/Sh 59	不妊治療と出生前診断：温かな手で	723/N 39	名画の謎：ギリシャ神話篇、陰謀の歴史篇、対決篇
495.6/Ky 2	わが子よ：出生前診断、生殖医療、生みの親・育ての親	726.6/C 96	ねえねえ、もういちどききたいなわたしがうまれたよること
501.32/Ki 39	材料強度の考え方 改訂	726.6/Sa 25	どうぶつえんのいっしゅうかん(わくわくライブラリー)
501.32/Ta 88	絵とき「破壊工学」基礎のきそ	727.8/F 93	ロゴづくりアイデア大全(デザインを学ぶシリーズ)
501.42/O 93	JIS鉄鋼材料入門 3版	727.8/Ma 99	女子タイポ。：流行型女子文字素材集
501.8/C 25	Achille Castiglioni	727.8/Y 97	もじ部：書体デザイナーに聞くデザインの背景・フォント選びと使い方のコツ
501.8/Ma 21	Things come apart : a teardown manual for modern living	727/Ki 11	アナログ・手描き・テキストチャー素材集
501.83/Mo 78	A book of things	740.1/B 27	写真のアルケオロジ（視覚文化叢書1）
520.2/Ke 41/1-2	建築20世紀 part 1, part 2（新建築）	740.21/U 13	絵画に焦がれた写真：日本写真史におけるビクトリアリズムの成立
520.8/C 25	Achille Castiglioni : complete works	740.4/C 88	現代写真論：コンテンポラリーアートとしての写真のゆくえ
521/H 64	日本の近世住宅（SD選書30）	740.4/G 39	写真講義
524.85/I 76	雨仕舞のしくみ：基本と応用	740.4/Sa 66	メディア写真論：メディア社会の中の写真を考える
525.1/F 63	藤村龍至：プロトタイピング：模型とつづやき	740/B 27	写真のキーコンセプト：現代写真の読み方
547.83/A 31	HTML5+CSS3の新しい教科書：基礎から覚える、深く理解できる。	743.6/N 32	動物・植物写真と日本近代絵画
547.4833/H 36	Webアプリ開発を加速するCakePHP2定番レシピ119	748/C 13	Sophie Calle
547.4833/Ma 87	はじめてのNode.js：サーバーサイドJavaScriptでWebアプリを開発する	748/N 66	Shirin Neshat : facing history hardback
547.4833/Su 28	パーフェクトRuby on Rails	748/N 66	Shirin Neshat : 2002-2005
547.4833/Y 19	Ruby on Rails 4 アプリケーションプログラミング	748/N 95	裸ノ時間
550.2/L 22	星と舵の航跡：船と海の六千年	751.04/Y 15	オブジェ焼き：八木一夫陶芸随筆
556.79/Y 79/1-2	ヨットの設計（上）（下）	751.1/Su 96	鈴木治陶芸作品集
586.8/Kr 1	レース：歴史とデザイン	751.1/Y 15	八木一夫作品集
594.3/R 47	ヨーロッパのレース：ブリュッセル王立美術館	751.3/Su 96	ファンタジーとマチエール：現代陶芸の解剖
611.15/Ta 87	中山間地域農村発展論	753/Mi 35	ミナベルホネンのテキスタイル
617.6/G 39	調香師が語る香料植物の図鑑	754.9/Ka 95	はじめての多面体おりがみ：考える頭をつくろう！
675.3/Mi 96	デザインの誤解：いま求められている「定番」をつくる仕組み	759/Ma 66	人形と情念
675/Ki 1	Start me up! : new branding for businesses	760.69/O 65/1-7	音楽芸術マネジメント 第1号-第7号
689.4/Su 96	稼げる観光：地方が生き残り潤うための知恵	760.9/Ki 35	日韓音楽ビジネス比較論：K-POPとJ-POP本当の違い
689/Ka 86/2015	観光ビジネス未来白書 2015年版	764.3/U 94	オーケストラは未来をつくる
701.1/D 67	Art as experience	764.7/B 72	そして、みんなクレイジーになっていく：DJは世界のエンターテインメントを支配する神になった
701.1/Su 49	失われた日本の美意識	770.8/E 61/1-7	演劇論講座：第1巻-第7巻
702.01/P 92	The art of art history : a critical anthology	778.059/J 49/2013-2016	映画年鑑 2013年版-2016年版
702.07/Kr 2	オリジナリティと反復：ロザリンド・クラウス美術評論集	778.059/J 49/2013-2016	映画館名簿 2013年版-2016年版
702.07/N 66	Shirin Neshat	801.03/Ki 24	憎悪表現とは何か：「差別表現」の根本問題を考える
702.35/C 13	Sophie Calle : m'as-tu vue	807/N 34	マルチリンガル教育への招待：言語資源としての外国人・日本人年少者
704/Ta 84	必然的にばらばらなものが生まれてくる	830.79/H 27	TOEICテスト超リアル模試600問
706.7/G 77	巨大化する現代アートビジネス	830.79/H 27/1-2	1駅1題新TOEIC TEST文法特急 [1][2]
706.923/D 93	Marcel Duchamp : la peinture, même	830.79/Mo 66/1-3	1駅1題新TOEIC TEST単語特急 [1][2][3]
706.923/D 93	Marcel Duchamp : étant donnés	830.79/To 19/1-7	TOEICテスト究極のゼミ Part 1-Part 7
706.923/Ma 29	マグリット展	910.264/R 12/1	特集第1回ライトノベル・フロントライン大賞発表！(ライトノベル・フロントライン)
706.923/Mo 65	Berthe Morisot : a retrospective	910.268/I 99	泉鏡花事典
706.923/N 57	ワシントン・ナショナル・ギャラリー展：アメリカ合衆国が誇る印象派コレクションから	910.28/I 99	泉鏡花：美とエロスの構造
706.9231/Mu 43	村上隆の五百羅漢図展	910.28/I 99	もうひとりの泉鏡花：視座を変えた文学論
706.95/D 72	Heads	910.28/I 99	幻想空間の東西：フランス文学をとらえてみた泉鏡花
706.95/I 59	陶芸の現在：京都から：10人の陶芸家が演出する空間のドラマ	913.49/Ky 6	たま藻のまへ（京都大学蔵むろまちものがたり10）
706.95/Su 96	鈴木治陶磁展：泥象を拓く	913.6/N 81/1-2	サラバ！（上）（下）
709.1/Y 86	トリエンナーレはなにをめざすのか：都市型芸術祭の意義と展望	913.6/O 18	性的人間
719/Su 96	近所の地球	914.6/Mu 27	夜中の薔薇
720.28/Se 75	女性画家の魅力：すぐわかる	933.7/B 77/1-2	インフェルノ（上）（下）
720.79/Ta 54	美人画の系譜：心で感じる「日本絵画」の見方	933.7/L 94/1-9	ラヴクラフト全集 1-7, 別巻（上）（下）
721.026/Ku 83	女性画家の全貌。	933.7/R 78/1-2	ハリー・ポッターと死の秘宝（上）（下）
723.35/I 54	Ingres	933.7/Sp 2	Dear John
723.35/I 54	Dessins d'Ingres : catalogue raisonné des dessins du musée de Montauban		
723.35/Ma 43	印象派の人びと：ジュリー・マネの日記		

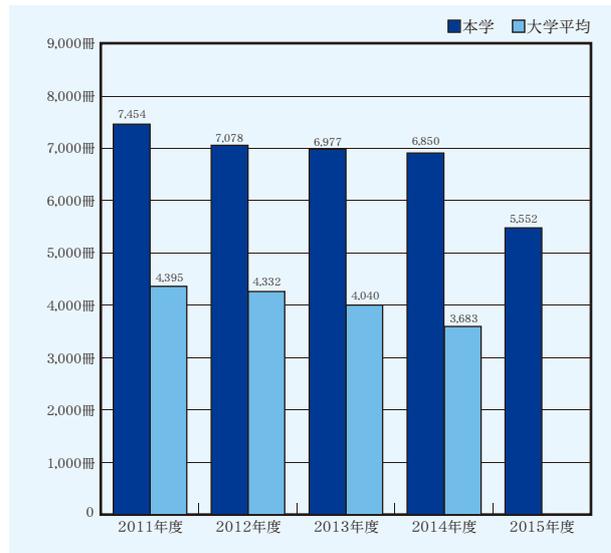
(計 263冊)

図書館・情報センターの蔵書数および利用状況

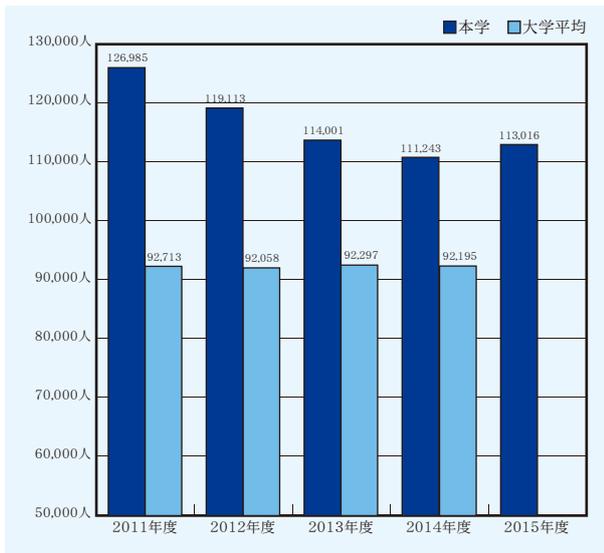
◎蔵書冊数



◎受入冊数



◎入館者数



◎館外貸出冊数



※大学平均は、日本図書館協会図書館調査事業委員会[編]『日本の図書館:統計と名簿』より算出

ユニバーサルデザイン絵本コンクール2016 作品募集のお知らせ

ユニバーサルデザインを理念の一つとしている本学では、2010年からユニバーサルデザイン絵本コンクールを開催しています。ユニバーサルデザイン絵本とは、身体的・知的特性、年齢、文化などを超えて皆が一緒に楽しむことのできる絵本、互いを理解し、共に生きていく社会につなげる絵本です。

2016年も、ユニバーサルデザイン絵本コンクールを開催します。形、構成、素材などにとらわれることなく、自由な発想で絵本をつくってください。皆さんからのご応募をお待ちしています。

【募集内容】 ユニバーサルデザイン絵本

【募集期間】 2016年9月1日～2016年10月12日

【募集要項・応募票】 以下のWebサイトからダウンロードすることが出来ます。

<http://www.suac.ac.jp/news/topics/2016/00986/>

【応募先・問い合わせ】 お問い合わせは、なるべくメールかFAXでお願いします。

〒430-8533 静岡県浜松市中区中央二丁目1-1

静岡文化芸術大学 UD絵本コンクール事務局 (林 左和子研究室)

Tel & Fax 053-457-6178 E-mail: ehon@suac.ac.jp



昨年度受賞作品